

1. 卵・仔魚の輸送機構の解明

(1) 卵・仔魚の採集・分類・同定



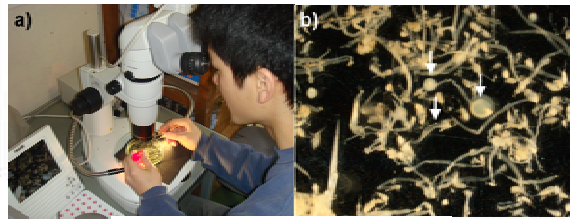
卵・仔魚の定点調査

有明海の中央部(島原沖)の産卵場から奥部浅海域(仔魚の成育場)にかけて15定点を設定

多くの魚類の主要な産卵時期である6月～9月にかけて月に1回程度、卵・仔魚の採集調査

各定点に出現する卵・仔魚の種組成と分布密度を解析

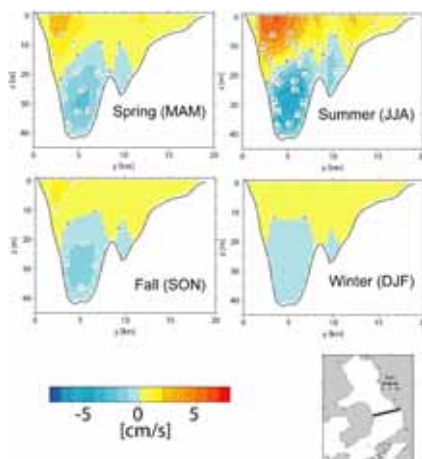
初年度は、主要な魚種と海域の特定、仔魚の鉛直・水平分布の実態把握に重点を置く



卵・仔魚ソーティング

1. 卵・仔魚の輸送機構の解明

(2) 物理環境と流れの測定および卵・仔魚輸送機構の解明



既存の水温・塩分観測資料から推定した有明海の中央部(島原沖)の密度流(密度が空間的に一様でないことによって生じる流れ)の湾軸方向成分の断面分布を示している(万田他, 2006)。寒色系の色で示した部分は北上流を示しており、夏季には下層で北上流が卓越している。

島原沖の下層で産卵を行う魚類は、この下層の北上流を有効に利用して、成育場所である奥部浅海域や諫早湾に移動している可能性がある。

水温・塩分場から推定した有明海中央部の密度流の湾軸方向流速成分の断面分布 (cm/s)
右下の地図中の実線は流速を推定した横断面の位置